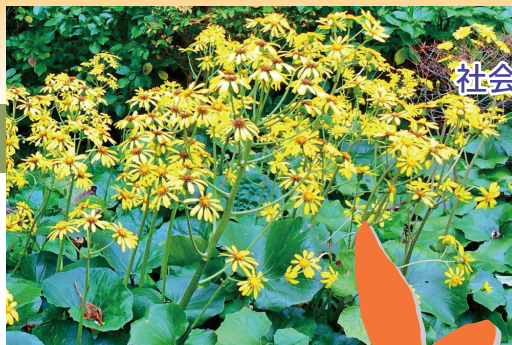




11月の花 つわぶき

常緑多年草で、海岸近くの岩場などに生えます。花の少ない晩秋から初冬に黄色い花を咲かせます。葉は革質でつやがあり、円くて直径 20cm 前後あります。又、毒性のある成分が含まれていますが、鑑賞する分にはとくに心配はありません。

とうめい news

2025.11.1
Vol. 291

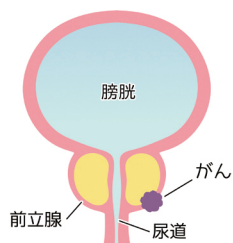
〒243-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発行者: 河野 昌史
編集責任者: 佐藤 賢治
印刷: (有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

前立腺癌について

泌尿器科: 藤城 貴教

TOPICS



皆さんも前立腺癌という病名を一度は聞いたことがあるのではないかと思います。前立腺がどこにあるかなど、詳しくご存じの方は少ないのではないかと思います。

前立腺は男性のみにある臓器です。膀胱の出口側に尿道のまわりを取り囲むように位置し、後面は直腸に接しています。栗の実のような形をしています。

前立腺は精液の一部となる前立腺液をつくっています。前立腺液にはPSA（前立腺特異抗原）というタンパク質が含まれています。ほとんどのPSAは前立腺から精液中に分泌されますが、ごく一部は血液中に取り込まれます。この血液中に取り込まれたPSAは前立腺癌の腫瘍マーカーとして用いられ、前立腺癌検診として利用されています。また、癌が診断されている場合は治療効果などを測る指標となります。

前立腺癌は、前立腺の細胞が何らかの原因で異常に増殖することにより起こる病気で、悪性腫瘍の一つです。多くの場合比較的ゆっくり進行し、早期に発見して適切に治療を行えば、治癒が望めます。

前立腺癌は進行すると精囊や膀胱、直腸など周囲の組織に浸潤することがあります。また、リンパ節や骨に転移することがあり、肺、肝臓、脳などに遠隔転移することもあります。

早期の前立腺癌は多くの場合自覚症状がありません。そのため、自治体の前立腺癌検診や人間ドックなどでPSAが測定され、基準値（4.0ng/ml）以上であれば泌尿器科を受診していただき、直腸診やMRIの所見も参考に前立腺生検という検査で、前立腺の組織の一部を採取し、病理学的に診断を行います。

前立腺癌と診断されたら、画像の検査で転移の状況など病気の広がりを評価し、治療方針を決定します。

一般的には前立腺に局限した癌であれば手術による前立

腺の全摘や、放射線治療といった局所の治療が中心となり、すでに診断時点で前立腺以外への転移などが見られる場合には男性ホルモンを抑制する治療（ホルモン療法）や抗がん剤による治療が中心となります。進行のリスクが低いと判断された場合には定期的なPSAのチェックや前立腺生検を行い進行が見られた場合に治療介入を行う監視療法が選択される場合もあります。

当院では前立腺癌の手術にはDaVinci Xiという手術支援ロボットを用いて治療を行っています。従来不可能とされていた角度からの視野の確保や拡大視野、鉗子の自在で繊細な動きにより、より精度の高い手術が可能となりました。術後の痛みの軽減、機能温存の向上、合併症リスクの軽減と言ったメリットが得られます。

また、放射線治療においてはIMRT（強度変調療法）と呼ばれる治療技術を用いて精度の高い治療を行っています。これは治療ビーム内の放射線の強度や形状を、臓器の形や位置に合わせて変化（変調）させて照射することで、対象臓器には高い放射線量を集中させながら、周囲の正常な組織への放射線量を減らすことができます。これにより副作用の低減と治療効果の向上が期待できます。この技術によりリスクは低減されておりますが、直腸と前立腺は接しており、直腸出血などの有害事象が起こりえます。これを解決するために、前立腺と直腸の間にゲル状の物質（ハイドロゲルスプレー）を注入し、前立腺直腸間に2cm程度の隙間を作る方法を導入しております。これらの技術により従来週5回の照射を2ヶ月程度かけて行う通常分割照射を行っていましたが、4週間で治療を完遂する中等度寡（か）分割（ぶんかつ）照射を安全に行うことが可能となっております。



このように前立腺癌に対する先進的な治療を当院で完結することが可能な体制を整えております。まずは、自治体の前立腺癌検診や人間ドックなどを是非受診していただき、基準値を超える場合には一度当科を受診していただければと思います。